

## 「表現の多様さを体感する造形あそび」の実践

岡崎女子短期大学  
准教授 横田典子



### 1. はじめに

筆者が勤務する岡崎女子大学・岡崎女子短期大学（以下、本学）では、現職の保育者・教育者を対象とするリカレント教育に取り組んでいます。筆者も本学に着任以降、造形に関する講座や研修を担当してきました。本稿では、上記の様な現職保育者を対象とした講座や研修で実践している「表現の多様さを体感する造形あそび」（以下、本あそび）を紹介したいと思います。

### 2. 「表現の多様さを体感する造形あそび」のきっかけ

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」<sup>1)</sup>と示されています。しかし、時々“伝わる”表現を求めてしまったり、保育者の感性に合わせた表現を求めてしまったりするなど「自分なりに表現する」こととは離れていると感じてしまう保育者の言葉を耳にします。筆者は、同じ物事に会っても感じ方は人によって異なり、またそれを表現する方法も人によって異なるもの、だからこそ表現は面白く、「自分なりに表現する」ことが大切になると感じています。そのような表現の面白さを伝えたいという思いから、2021年より本あそびを実践しています。

### 3.「表現の多様さを体感する造形あそび」の概要

本あそびの概要は以下の通りです。

#### (1) 準備物

本あそびに必要な物は、粘土、粘土板やヘラなどの粘土造形に必要な道具、そしてオノマトペリ

オノマトペリスト		
どんっ	ごろごろ	うずうず
がたがた	びりびり	ぼろぼろ
ちよろちよろ	かちかち	ぼりぼり
びんびん	つんつん	ぐしゃぐしゃ
しゃきしゃき	つるつる	ぐらぐら
きゅうきゅう	にぶきにぶき	ぼこぼこ
ざらざら	ぶよぶよ	ぎしつ

図1 オノマトペリスト

スト（図1）です<sup>(1)</sup>。このオノマトペリストは、本あそびのために筆者が作成したものであり、21種類のオノマトペを記載しています。記載したオノマトペは色や形のイメージが湧きやすいものや反対に湧きにくいもの、似たようなイメージが浮かびやすいものなどを選んでいきます。

#### (2) 導入・制作

まず、オノマトペリストを提示し、「誰にも話さない様にリストにあるオノマトペの中から1つ選び、粘土で表現してみましょう。」と投げ掛けます。受講者の中には、戸惑いを見せる方もいますが、手が進んでいく周囲の受講者につられて次第に手が動き出します。筆者など講座講師（以下、講師）は、受講者の作品を見て回り、「面白い形ですね！」などと声をかけたり、オノマトペリストと見比べながら「何かなあ…」と悩ませてたりし



図2 「ぐしゃぐしゃ」を表現



図3 「うずうず」を表現



図4 「ぼろぼろ」を表現



図5 「ぎゅつ」を表現



図6 「きゅうきゅう」を人で表現



図7 「ちよろちよろ」を水滴の様子で表現

ます。講師がいずれの作品に対しても創造力豊かに関わることで、受講者が安心して「自分の表現」を楽しもうという姿が変わっていくと感じます。制作される作品は、図2～5

の様に抽象的な表現が多く見られますが、中には図 6、図 7 の様に具象的な表現もあるなど、多様な形が生まれます。

### (3) 作品鑑賞

制作が終わると作品を鑑賞します。いうまでもなく、この時間が本あそびの最も重要な部分になり、ここで本あそびの目的を達成できるかどうかが決まるといっても過言ではありません。筆者が行っている流れは、まず作品の 1 点を取り上げ、受講者各々で何のオノマトペを表現しているのかイメージしてもらいます。その後、講師の「せーの！」という声かけと同時に、全員でイメージしたオノマトペを発言します。様々なオノマトペが聞こえ、「一緒！」と顔を見合わせたり、「え〜!？」と異なるオノマトペが聞こえて驚いたりする受講者の姿が見られます。1つの作品でイメージされるオノマトペの数はおおよそ 3〜6 種類くらいであり、全員が一致することはほぼありません。その後は、講師が「確かにそうですね」や、「なるほどそんな見方もできますね」など一つ一つのイメージに共感しつつ、イメージされたオノマトペを確認していきます。確認が終わり、作者から表現したオノマトペを発表してもらおうと、受講者は頷いたり、驚いたりするなど様々な反応を見せます。もちろん、作者と同じオノマトペをイメージしていたら「正解」ではありません。講師も発言の際には「同じ（異なる）感じ方」や「同じ（異なる）イメージ」などの言葉を選び、異なるイメージをすることが間違いなのではなく、むしろ、面白いことであると体感できるようにします。

取り上げる作品数は可能な限り多くし、作品から受けるイメージが人によって異なるだけでなく、同じオノマトペを表現するうえでも方法は様々あり、いずれも「その人なりの表現」であることを伝えられるようにします。このように、講師がどのような作品やイ



図8 講座の様子

メージに対しても受け止め、共感することを繰り返していくことで、次第に受講者の反応が

変わり、複数のオノマトペが聞こえてくることを期待するような雰囲気になっていきます。最後は、取り上げることができなかった作品についても、周囲の受講者同士でイメージし合い、あそびを終わります。

#### 4. 「表現の多様さを体感する造形あそび」の効果

本あそびを実施した講座後にいただいたアンケート<sup>(2)</sup>では、「一人ひとり作るものが異なり、また、それを見て、どのように感じるのかも一人ひとり違い、面白かった」など、表現の仕方や感じ方が人によって異なることを実感し、それが面白かったという記述を多数いただいています。「園でもやってみたい」といった子どもたちと実践してみたいという記述も複数見られました。また、「人によって考え方や捉え方が違うので表現の幅が広がり、豊かな表現に結び付くと思った」や「作品を見ることも大事だと感じた」など、「自分なりに表現」された作品を互いに鑑賞することが、「豊かな表現」を育む方法の一つであることに気付いていただけた内容もありました。他にも、「自分の表現を周りに受け止めてもらって嬉しかった」や「受け止めてもらうことで、表現することが楽しいと思えるきっかけになる」など、表現を受け止めることの大切さを実感できたという記述もあり、保育者自身が子どもに育てて欲しいことを体感する重要性を再認識しました。

#### 5. 「表現の多様さを体感する造形あそび」の発展

上記に記載した概要では、本あそびの材料として粘土を用いましたが、近年では、より多くの場で実践できるようにクレヨンやパステルを用いた実践も行っ



図9 「きゅうきゅう」を表現

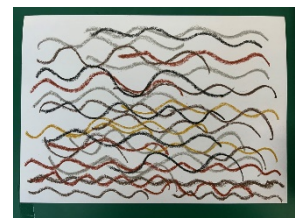


図10 「ぐらぐら」を表現



図11 「びりびり」を表現



図12 「どんっ」を表現

ています。(図9～12)。

また、オノマトペを表現することに戸惑う受講者の姿も見られたことから、同一のオノマトペを複数の表現で描いた参考作品(図13)を見せ、様々な表現方法があり、いずれも正解でも間違いでもないことを事前に伝え、安心して取り組めるような導入を試みています。



図13 オノマトペの表現の参考作品

## 6. おわりに

現在、本あそびは現職保育者の方を対象とした講座や研修で実践していますが、今後は養成課程の学生とも行っていきたいと考えています。しかし、筆者が学生と接する中で感じている課題として、人と違うことを恐れてしまったり、表現に正解を求めてしまったりする学生が多いこと、抽象的な表現に苦手意識を持つ学生が多いことなどがあります。学生と本あそびを行うには、導入方法の工夫や本あそびに至るまでの過程で上記のような課題を軽減することが必要であり、今後は上記課題に対応できるような試行も含めて実践を繰り返していきたいと考えています。

### 註

- (1) オノマトペリストは実践を繰り返す中で試行を重ねており、図1は現在使用しているリストになります。
- (2) 引用したアンケートは、2021～2023年に本あそびを実施した「A市定期講座講習」の受講者48名から回答を得たものになります。

### 引用・参考文献

- 1) 文部科学省(1999)『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、p.233

### 謝辞

本あそびの考案および本稿の執筆に際して、岡崎女子短期大学 野田美樹教授より多くのご助言、ご協力をいただきました。ありがとうございました。